

「いただきます」は「ありがとう」

橋中学校 二年 鈴木 音登

最近、自分は気になる調査内容を示したグラフが目に留まりました。調査内容は「いつも、いただきますと言っている?」というものでした。その調査の結果は、半分以上の人人が、いただきますと声を出して言わないという結果でした。

みなさんは、食事をする時、「いただきます」「ごちそうさま」が言えていますか。自分は、朝食・昼食・夕食と、どの場面でも「いただきます」「ごちそうさま」と言うことが習慣だと思っていました。それではなぜ、最初のような結果が生まれてしまつたのでしょうか。自分は、「いただきます」を言わない人は、今、安心して食事ができることが、あたりまえだと勘違いしているのではないかと思います。それは間違いです。過去には、戦争の影響で食べ物を失い、栄養失調になる人がたくさんいて、現在でもアフリカなどでは、激しい紛争などで飢餓になつている人もたくさんいます。

一方、そのような現実を知つても、いただきますを言わない人も多いのではないかと思います。それは、そもそもいただきますを言つて意味がない、と思つてているんだと思います。それも自分は間違つていています。いただきますの意味は食材の命と食事に関わつたすべての人々への感謝の言葉という意味です。そう考えるといたしますは、「ありがとう」と似ていると感じませんか。日々の生活において「ありがとう」という言葉を全く使わない人などいますか。だから自分はいただきますを言う事には意味があると思います。

自分が、この主張をしようと思ったのには理由があります。それは、「火垂るの墓」という戦争の映画を見たからです。この映画は原作者の実体験を基に作られていて、戦争によつて両親を失つた幼い兄妹がたどる過酷な運命を描いています。その後、兄妹は誰もいない防空壕で自炊生活を始めます。兄は、さまざまな方法でなんとか食料を手に入れ、妹を育てていてますが、最終的に妹は、栄養失調で亡くなりました。このとき、人生で初めて戦争が関係している映画を見た自分には、衝撃が走りました。現在では、栄養失調で亡くなつている人は多くはないのに、戦争をしていた少し前までは、こんなにも悲しい出来事が頻繁に起きていたからです。この映画を見て、食べ物のありがたみを感じ、今、安心して食事ができていることは、けつしてあたりまえではないという自分の考えをより他者に伝えたくなつたので、今回の主張にしようと思います。

した。

このように自分は「いただきます」と「ごちそうさま」は「ありがとうございます」とイコールで結ばれると思います。今、日本人が安心して食事ができるのは、平和という現状があるからこそです。場所によつては、今でも戦争や紛争で安心して食事ができない人もたくさんいます。そういうことを念頭に置きながら生活をしていけば、自然と温かい「いただきます」「ごちそうさま」があふれる日本になると思います。ただ、日本とは違つて、そもそも特定の食事のあいさつがない国も少なくないそうです。自分はどの国でも「いただきます」、「ごちそうさま」というありがとうの意味をもつた言葉が存在して、それがあふれる世界になることを願いたいと思います。